



## テーマ

Theme

自衛隊による防災教育支援

## 学校・園名

School name

草津市立玉川中学校

## 講師等

Lecturer etc.

自衛隊滋賀地方協力本部

## 実施日

Date

2018年2月13日

## 教科等

Subject etc.

総合

## 授業

Class



草津市立玉川中学校において、自衛隊滋賀地方協力本部との連携授業が実施されました。2011年3月、甚大な被害をもたらした東日本大震災以来、交流を続けている宮城県塩竈市立玉川中学校への修学旅行を前に、その事前学習として行われました。

まず、東日本大震災時、実際に宮城県の被災地で救助活動を行った災害派遣隊の元指揮官の講話がありました。講話では、地震発生直後からの被災地の様子や被害状況について、また、地震発生時から約5ヶ月間の救助活動について語られました。話とともに映された自衛隊員が記録した被災地の画像は、震災による人・街への被害の甚大さと津波の脅威が伝わってくるものでした。救助に出た先々で目に映った光景や実体験の語りをとおして、生徒たちは、被災地の人々の苦悩を知り、命の尊さを感じ取りました。そして、災害対応の心構えについて、自助、共助、公助といわれるけれども、一番大事なものは「自助」であること、自分の命は自分で守ることが本当に大切だと教わりました。

その後、災害派遣活動に使用する、鉄格子などを切ることができる油圧式のカッターの使用、命綱となるロープの結策（力が加わっても解けず締め付けず輪の大きさが変わらない）、そして、救急法などを体験しました。救急法は、自分より軽い意識のある患者を、周りに誰もいない状況の中、一人で搬送する方法です。これは、もしもの場合に役立つと実感できる体験でした。

生徒たちが、被災地の方々の気持ちに寄り添い、防災について意識を高めることができる連携授業でした。

## 感想

Impression

## 生徒より Impression from Children

- 東日本大震災時、どれだけ大変だったかということがわかりました。塩竈に行ったら今回のお話を思い出して交流したいなと思いました。
- 震災のことを何も知らずに、塩竈に行ったら失礼。今回、命の大切さを知りました。少しですが被災地の人たちと同じ気持ちになって交流できます。
- 津波は、誰もが予測できなかった規模だったということを改めて実感しました。今も復興が続いているので自分のできることはしていきたいと思いました。
- 命綱の結び方は、実際に災害にあったときに役に立つなと思いました。
- 話を聞いて、震災の恐ろしさがよくわかりました。まずは、「自助」がしっかりとできるように、普段から震災に備えておこうと思いました。
- 自衛隊の方は、自分の家族の無事もわからないまま他の人たちの救助をされていることを知りとても驚きました。

## 学校より Impression from school

これから修学旅行に行く場所で起こった震災についてのお話が聞くことができ、子どもたちの心にとっても響きました。

## 講師より Impression from lecturer

今回の内容が、少しでも今後役に立てば幸いです。